### 奥入瀬渓流の自然保護と利活用を両立させる

# 「新たな交通モード」を構築するための社会実験(青森県十和田市)

# 社会実験の概要

期間: 平成26年10月25日(土)~平成26年10月26日(日)

内容:

1. エコロードフェスタの実施

渋滞の解消と環境保護のため交通規制と代替交通手段の運行を実施し、効果を検証した。(交通規制の実施、シャトルバスの運行)

2. 交通に関する調査の実施

奥入瀬渓流区間における「新たな交通システム」の構築に向けた基礎資料として、交通実態や利用者の動向・交通規制に関する意向を把握した。

3. <u>奥入瀬渓流の貴重な自然(=価値)を知っていただくための社会実験・調査の実施</u>来訪者の観光動向及び交通規制と新たな交通システムに関する意向を調査した。また、来訪者ニーズの把握のためのパネル展示とアンケート調査を実施した。









パネル展示時の様子

### 奥入瀬渓流の自然保護と利活用を両立させる

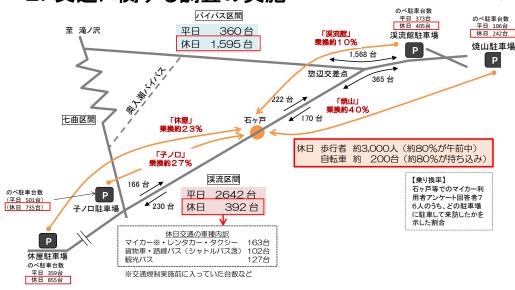
## 「新たな交通モード」を構築するための社会実験(青森県十和田市)

## 実験結果

#### 1. エコロードフェスタの実施

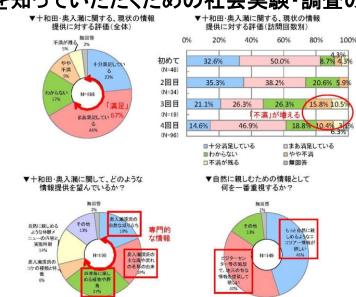
- ・交通規制の実施
- 規制車種をマイカー(自家用乗用車やレンタカー)に絞って実施したが、交通量の67%を削減することができ、渋滞も解消され、交通規制の効果を確認した。
- ・シャトルバスの運行
- シャトルバス最終便間際での混雑によりバス待ち客の渋滞(積み残し)が発生した。
- →シャトルバス運行時間・間隔等について、見直す必要がある。

#### 2. 交通に関する調査の実施



### 3. 奥入瀬渓流の貴重な自然(=価値)

### を知っていただくための社会実験・調査の実施



# 本格実施に向けた課題

- ・運営対策上、情報の収集と提供方法、教育(学習利用)分野、移動支援(交通施策)、地域の取り組み支援(イベント開催等)等について、それぞれ技術部会を立ち上げるなど、実質的な検討を進める体制を構築する必要がある。
- ・代替交通手段であるシャトルバス等の運行にあたり、利用者数の推定、料金の設定、システムの導入費用や維持管理費などを見込んだ運営方法など、採算性の検討を行う必要がある。
- ・当該地域は十和田八幡平国立公園の自然保護地区に指定されているため、渓流区間内における福祉車両等の乗り換え用駐車スペースや休憩施設の整備方法などの他、今後、代替交通手段として検討の可能性がある、超小型モビリティなどの道路交通法上の取り扱いなどについて、法制度上の課題を関係機関と調整して行く必要がある。